

「消防団の力向上モデル事業」 事業紹介

事業名 学生消防団発足に向けた消防団員加入促進事業

自治体名

三重県鈴鹿市

消防団名

鈴鹿市消防団

1 事業の目的・必要性

【目的】近年、複雑多様化及び大規模化する自然災害や近い将来発生が予測されている南海トラフ地震に備え、将来の地域防災の担い手である若者を確保し、地域防災力の強化に繋げることを目的に学生消防団の発足を目指します。

【必要性】学生の入団促進にあたっては、学生に消防団の役割やその活動について理解いただくことや大学の事務局と連携を図ることが必要です。そのため、本事業を実施し、学生に防災に関心を持っていただくとともに消防団の活動を体験し、地域社会の一員として貢献することのやりがいを感じていただくことで、学生消防団発足の土壌を築く必要があるため。

2 事業内容

・学生消防団発足に向けた市内の大学と連携した一日消防団員体験

市内2大学の教授等と連携して、授業の一部を活用した学生向けの説明会を開催し、本市消防団の現状や活動内容、魅力などを伝えるとともに若年層への入団促進を行いました。また、一日消防団員体験では、消防団員が訓練指導者として参画する自治会等の防災訓練に学生が参加し、ホース延長や、消火器の取り扱い、煙体験、地震体験車、救急法、倒壊家屋からの救助活動、防災講話などの様々な体験を通して、防災について学ぶとともに消防団の活動を理解していただくことで、学生に消防団活動への参画を促しました。さらには、外部講師による震災体験や消防団の取組み、被災地域の復興などについての講話のほか、防災ゲームを盛り込んだ防災研修会を開催し、学生に多様な体験ができるように努め、将来を見据えた地域防災力の確保に繋がる取組みを行いました。

・成人式や消防出初式を活用した学生への消防団加入促進事業

大学生で本市消防団に入団している団員と連携して若年層への入団促進を目的としたリーフレットを作成し、市内大学への配布や約6,000人の来場者があった消防出初式、約1,300名が参加した成人式においても配布することにより、多くの若者に対して入団促進を図りました。

防災研修会



一日消防団員体験



3 事業成果

市内大学への説明会や一日消防団員体験、防災研修会では、若い世代に消防防災意識の向上を図ることができ、学生の共助、公助の責任感の醸成にも繋がりました。また、学校側との打ち合わせや説明を繰り返すことにより連絡・連携体制を構築することができました。さらに、一日消防団員体験として学生が自治会等の訓練に参加することにより、防火・防災の知識を習得できただけでなく、地域の人との間で会話が生まれ、訓練に活気が溢れました。加えて防災研修会では、外部講師による震災体験などの講話や防災について楽しく学ぶことができる防災ゲームを盛り込み、学生にとって多様な体験ができるように工夫することにより、将来を見据えた地域防災力の確保として大規模災害発生時の被災者救助の知識や技術を持った住民層を広げることに繋がりました。

学生に向けた入団促進物品（リーフレット）の作成と配布については、消防出初式での数千人規模の来場者に対し、若年層への入団促進をはじめとする消防団の広報を行えたことに加え、成人式では若者に的を絞った取組みを行うことができました。また、市内の大学生に対しても配布することで、多くの若者に鈴鹿市消防団の魅力を伝えることができました。

様々な取組みを実施してきたことにより、基本団員2名の若者の入団に繋げることができたことに加え、多くの学生に鈴鹿市消防団について興味を持ってもらうことができ、結果として学生消防団の発足に向けて進めていくことが可能となりました。 ※令和6年4月1日発足予定

4 目標達成状況

指標	単位	当初目標	実績値	備考
打ち合わせ	回数	2回	5回	鈴鹿医療科学大学 2回 鈴鹿大学 3回
説明会	回数	2回以上	4回	鈴鹿医療科学大学 2回 鈴鹿大学 2回
説明会の参加者	人数	150人	約200人	鈴鹿医療科学大学 85人 鈴鹿大学 115人
一日消防団員体験	回数	2回以上	4回	消防・防災訓練 3回 防災研修会 1回
一日消防団員体験参加者	人数	約80人	88人	消防訓練・防災訓練 20人 防災研修会 68人
広報媒体	リーフレット 作成・配布数	7,000部	5,800部	消防出初式 約3,000部 成人式 約1,300部 市内大学生 約1,500部

5 その他参考情報

○鈴鹿市消防本部公式X（旧Twitter）

https://twitter.com/suzukaFD119?ref_src=twsrc%5Etfw
（防災研修会や一日消防団員体験、リーフレットなどを掲載）

「消防団の力向上モデル事業」 事業紹介

事業名 学生消防団発足に向けた消防団員加入促進事業

自治体名

三重県鈴鹿市

消防団名

鈴鹿市消防団

1 事業の目的・必要性

【目的】近年、複雑多様化及び大規模化する自然災害や近い将来発生が予測されている南海トラフ地震に備え、将来の地域防災の担い手である若者を確保し、地域防災力の強化に繋げることを目的に学生消防団の発足を目指します。

【必要性】学生の入団促進にあたっては、学生に消防団の役割やその活動について理解いただくことや大学の事務局と連携を図ることが必要です。そのため、本事業を実施し、学生に防災に関心を持っていただくとともに消防団の活動を体験し、地域社会の一員として貢献することのやりがいを感じていただくことで、学生消防団発足の土壌を築く必要があるため。

2 事業内容

・学生消防団発足に向けた市内の大学と連携した一日消防団員体験

市内2大学の教授等と連携して、授業の一部を活用した学生向けの説明会を開催し、本市消防団の現状や活動内容、魅力などを伝えるとともに若年層への入団促進を行いました。また、一日消防団員体験では、消防団員が訓練指導者として参画する自治会等の防災訓練に学生が参加し、ホース延長や、消火器の取り扱い、煙体験、地震体験車、救急法、倒壊家屋からの救助活動、防災講話などの様々な体験を通して、防災について学ぶとともに消防団の活動を理解していただくことで、学生に消防団活動への参画を促しました。さらには、外部講師による震災体験や消防団の取組み、被災地域の復興などについての講話のほか、防災ゲームを盛り込んだ防災研修会を開催し、学生に多様な体験ができるように努め、将来を見据えた地域防災力の確保に繋がる取組みを行いました。

・成人式や消防出初式を活用した学生への消防団加入促進事業

大学生で本市消防団に入団している団員と連携して若年層への入団促進を目的としたリーフレットを作成し、市内大学への配布や約6,000人の来場者があった消防出初式、約1,300名が参加した成人式においても配布することにより、多くの若者に対して入団促進を図りました。



3 事業成果

市内大学への説明会や一日消防団員体験、防災研修会では、若い世代に消防防災意識の向上を図ることができ、学生の共助、公助の責任感の醸成にも繋がりました。また、学校側との打ち合わせや説明を繰り返すことにより連絡・連携体制を構築することができました。さらに、一日消防団員体験として学生が自治会等の訓練に参加することにより、防火・防災の知識を習得できただけでなく、地域の人の間で会話が生まれ、訓練に活気が溢れました。加えて防災研修会では、外部講師による震災体験などの講話や防災について楽しく学ぶことができる防災ゲームを盛り込み、学生にとって多様な体験ができるように工夫することにより、将来を見据えた地域防災力の確保として大規模災害発生時の被災者救助の知識や技術を持った住民層を広げることにつながりました。

学生に向けた入団促進物品（リーフレット）の作成と配布については、消防出初式での数千人規模の来場者に対し、若年層への入団促進をはじめとする消防団の広報を行えたことに加え、成人式では若者に的を絞った取組みを行うことができました。また、市内の大学生に対しても配布することで、多くの若者に鈴鹿市消防団の魅力を伝えることができました。

様々な取組みを実施してきたことにより、基本団員2名の若者の入団に繋げることができたことに加え、多くの学生に鈴鹿市消防団について興味を持ってもらうことができ、結果として学生消防団の発足に向けて進めていくことが可能となりました。 ※令和6年4月1日発足予定

4 目標達成状況

指標	単位	当初目標	実績値	備考
打ち合わせ	回数	2回	5回	鈴鹿医療科学大学 2回 鈴鹿大学 3回
説明会	回数	2回以上	4回	鈴鹿医療科学大学 2回 鈴鹿大学 2回
説明会の参加者	人数	150人	約200人	鈴鹿医療科学大学 85人 鈴鹿大学 115人
一日消防団員体験	回数	2回以上	4回	消防・防災訓練 3回 防災研修会 1回
一日消防団員体験参加者	人数	約80人	88人	消防訓練・防災訓練 20人 防災研修会 68人
広報媒体	リーフレット 作成・配布数	7,000部	5,800部	消防出初式 約3,000部 成人式 約1,300部 市内大学生 約1,500部

5 その他参考情報

○鈴鹿市消防本部公式X（旧Twitter）

https://twitter.com/suzukaFD119?ref_src=twsrc%5Etfw
（防災研修会や一日消防団員体験、リーフレットなどを掲載）